

## 履歴書・教育研究業績書記入上の注意点

### 履歴書

#### 1. 全般

- ①年月日は西暦で記入してください。
- ②各事項は年月日順（過去→現在）に記載してください。
- ③記入スペースが足りない場合や、同項目内でページがまたがる場合は、適宜改行・行の高さの調整を行ってください。
- ④2ページ以上にわたる場合、各ページ各中央にページ番号を付番してください。
- ⑤2桁以上の数字は半角で入力してください。
- ⑥記入する事柄がない場合は『該当なし』と記入してください。

#### 2. 年齢

記入時の満年齢を記入してください。

#### 3. 学歴

- ① 大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴（大学の別科及び専攻科を含む）を有する場合、全ての学歴（授与された学位及び称号を含む）を記入し、それ以外の場合には、最終学歴を記入してください。なお、博士課程において課程の修了に必要な単位を取得後、博士の学位を授与されないまま退学した場合には、「博士課程単位取得後退学」と記入してください。なお、学位の専攻分野については、授与された時期によって表記が異なりますので、学位記を確認の上、正確に記入してください。  
【1991年6月以前に学位を取得した場合】  
「●●学士」「●●学修士」「●●学博士」  
【1991年7月以降に学位を取得した場合】  
「学士（●●）」「修士（●●）」「博士（●●）」と記載
- ②大学の別科、専攻科については「学歴」欄に、研究生、聴講生等は「職歴」欄に記入してください。
- ③医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格についても記入してください。この場合、登録番号等も併記してください。外国における資格にあっては、正確に記入するとともに、その資格の内容を日本語で併記してください。
- ④学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
- ⑤外国の大学等の経歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等はアルファベットとカタカナを併記し、国名を必ず記載してください。
- ⑥外国留学については、学生としての留学の場合は「学歴」欄に、研究者としての留学の場合は「職歴」欄に記入してください。

#### 4. 職歴

---

- ①全ての職歴（自営業、主婦、無職等を含む）を記入するとともに、職名、職位等についても明記してください。
- ②各職歴について在職期間を明確にし、現職については「現在に至る」と記入してください。
- ③研究者としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
- ④外国での職歴等を記載する場合はアルファベットとカタカナを併記してください。
- ⑤専門分野や担当科目に直接関係のある職歴については、できるだけ具体的に記入してください。  
(例：看護学科の教員で看護師経験のある者の当該看護師時の勤務病棟等)

#### 5. 学会及び社会における活動等

---

- ①履歴書作成時において所属する学会の名称を記入してください。
- ②学会及び社会における活動等のうち、専攻や研究分野等に関連する事項を記入してください。

#### 6. 賞罰

---

- ①公的機関、学会、出版社等からの表彰又は職務上の表彰や懲戒処分、研究費の不正受給に係る処分等を記入してください。
- ②本学では、令和5年9月29日文部科学省高等教育局長通知「セクシュアルハラスメントを含む性暴力等の防止に向けた取り組みの更なる推進について（通知）」を踏まえ、セクシュアルハラスメント・性暴力等を原因とする懲戒処分歴等の確認を行います。つきましては、セクシュアルハラスメント・性暴力等を原因とする懲戒処分歴がある場合は処分内容及びその具体的な事由を履歴書の賞罰欄に必ず記入願います。また、パワーハラスメントを含むその他のハラスメント、研究費不正、その他の事由による懲戒処分歴についても同様にご記入ください。なお、懲戒処分歴等の重大な経歴詐称が判明した場合、採用取消や懲戒解雇の対象となります。

#### 7. 日付・氏名（最下段）

---

- ①日付は記入日を記載してください。
- ②氏名欄は、以下のいずれかで記載してください。
  - 1) 氏名を印字し、氏名の横に押印する。
  - 2) 氏名を自署する。

# 教育研究業績書

## 1. 全般

- ①年月日は西暦で記入してください。
- ②各事項は年月日順（過去→現在）に記載してください。
- ③記入スペースが足りない場合や、同項目内でページがまたがる場合は、適宜改行・行の高さの調整を行ってください。
- ④2ページ以上にわたる場合、各ページ各中央にページ番号を付番してください。
- ⑤2桁以上の数字は半角で入力してください。
- ⑥記入する事柄がない場合は『該当なし』と記入してください。

## 2. 日付・氏名（最上部）

- ①日付は記入日を記載してください。
- ②氏名欄は、以下のいずれかで記載してください。
  - 1)氏名を印字し、氏名の横に押印する。
  - 2)氏名を自署する。

## 3. 「研究分野」及び「研究内容のキーワード」

- ①「研究分野」の欄には、2017（平成29）年度まで使用されていた科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」の分科レベルの名称又は「科学研究費助成事業 審査区分表（総表）」の中区分の名称（「およびその関連分野」は省略可）を用いて、研究分野の主なものを3つ以内で記入してください。
- ②「研究内容のキーワード」の欄には、「系・分野・分科・細目表」の細目又は「科学研究費助成事業 審査区分表（総表）」の小区分を参考に、研究内容を表すキーワードを5つ以内で記入してください。
- ③各表に該当がない場合は、適宜記入してください。

## 4. 「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」

「事項」の欄については、専門分野や担当授業科目に関連する教育上の能力に関する事項及び職務上の実績に関する事項を年月日順（過去→現在）に簡潔に記入してください。

### （A）教育上の能力に関する事項

#### 1. 教育方法の実践例

優れた教育方法の実践例、マルチメディア機器を活用した授業方法、授業外における学習を促進する取組、授業内容のインターネット上での公開、司法研修所等の教育機関における教育経験

#### 2. 作成した教科書、教材

作成した教科書、教材、授業や研修指導等で教科書として使用している著書、教材等（後の「著書、学術論文」との重複も可。その場合、「（再掲）」と記入してください。）

### 3. 教育上の能力に関する大学等の評価

- ・各大学での自己点検・評価の一環として、教育面で高い評価を受けた事実（その事由と評価内容）
- ・採用決定の際等における教育上の能力に関する評価
- ・学生による授業評価、教員同士の相互評価等をまとめたもの
- ・学外の評価機関等が行った評価
- ・上記以外で、学長、学部長、学内諸機関等が行った評価（客観性を持ったものについて記載） 等

### 4. 実務の経験を有する者についての特記事項

- ・大学から受け入れた実習生に対する指導
- ・職能団体の依頼による研修指導等
- ・訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修
- ・大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等
- ・その他、所属機関や関係機関等において行った講義、講習、職員・関係者等に対する指導、海外等における留学、調査研究経験等を広く記載してください。

### 5. その他

- ・大学教育に関する団体等における活動、教育実績に対する表彰等
- ・国家試験問題の作成等
- ・外部資金の導入実績

※上記にとらわれず、1～4に該当するもの以外の事項について幅広く積極的に記載してください。ただし、奨学金受給、補助金採択等については、履歴書には記載しないでください。

## (B) 職務上の実績に関する事項

### 1. 資格、免許

医師、歯科医師、薬剤師、獣医師、看護師、教員等の資格で担当予定授業科目に関連するもの

### 2. 特許等

特許、実用新案等で担当予定授業科目に関連するもの

### 3. 実務家教員についての特記事項

実務経験の記載方法については「職歴」欄に記入した事項を中心に、専門分野や担当する授業科目に対応した下記の事項を参考に記載してください。

- ①従事した期間
- ②職務の内容（どのような職務について、どのような役割を果たしたか）
- ③成果、結果

- ・大学との共同研究
- ・訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の担当実績
- ・各種審議会・行政委員会、各種ADR等の委員
- ・行政機関における調査官等の官職
- ・研究会・ワークショップ等での報告や症例発表
- ・調査研究、留学、海外事情調査等
- ・上記を裏付ける報告書、手引書、マニュアル、雑誌等

#### 4. その他

- ①職能団体等の第三者から、実務家としての卓越性に関して評価・推薦等がある場合
  - ・職能団体等の名称、代表者、目的、業務
  - ・評価・推薦の内容
- ②論文の引用実績等々
- ③上記にとらわれず1. から3. に該当するもの以外の事項について幅広く記載してください。

#### 5. 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等で発行または学会誌等での掲載予定のものについては、出版社や学会からの「掲載決定通知書」（名称は各誌による）のコピー及び掲載予定論文（全文）を添付してください。書類提出時に投稿予定段階のものは含めないでください。

##### 1. 「著書、学術論文等の名称」の項

- ア 研究等に関連する主要な業績を、「（著書）」、「（学術論文）」、「（学会発表等）」「（その他）」の項目に適切に区分し、各業績を発表順（過去→現在）に通し番号を付して記入してください。
- イ 「（著書）」については、書名を記入してください。
- ウ 「（学術論文）」については、国際学術雑誌、学会機関誌、研究報告等に学術論文として発表したものの題名を記入してください。学位論文については、その旨を明記してください。
- エ 「（学会発表）」については発表のテーマを記入してください。また、テーマの後ろに、当該業績の区分（[口頭発表]、[総説]など）を記入してください。
- オ 「（その他）」については、上記イ～エに該当するもの以外の事項について記入してください。総説、学会抄録、依頼原稿等にあつては当該記事のタイトルを、報告発表、座談会、討論等にあつては当該テーマを記入してください。
- カ 美術関係等の業績として作品集を提出する場合は、別途1部提出してください。なお、作品集については、審査終了後に返却が可能ですので、提出時にその旨を申し出てください。
- キ 査読付きの論文については、題名の後に「<査読付>」と記載してください。  
例： ●●における××の課題<査読付>
- ク 学位論文については、その旨明確になるように記入してください。
- ケ 当該著書、学術論文等が外国語の場合、著書等名（共著の場合は本人担当部分の章、節、題名も含む）はその外国語で記入するとともに、カッコ（ ）書きで訳文を記入してください。当該著書等の概要は日本語のみで構いません。

##### 2. 「単著・共著」の項

当該著書等に記載された著作者が単独である場合には「単」、著作者が複数いる場合には、監修、編集、編著、共著、部分執筆等の関わり方によらず「共」と記入してください。なお、担当部分が単著であっても著書全体で他の執筆者がいる場合は、「共」となります。

##### 3. 「発行又は発表の年月」の項

当該著書等の発行又は発表の年月を記入してください。

#### 4. 「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」の項

- ア 著書については、発行所を記入してください。
- イ 学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号を明記してください。
- ウ 報告発表等の場合には、学会大会名、開催場所等を明記してください。

#### 5. 「概要」の項

- ア 当該著書・学術論文等の概要を200字程度で記入してください。
- イ 当該著書・学術論文等が共著の場合には、当該著書の概要（200字程度）のほか、以下の事項を記入してください。
  - 1) 本人の担当部分の概要、章、節、題名、掲載ページ（pp. ○○～pp. ○○）を示してください。
  - 2) 本人の氏名（下線を付すこと）を含め、著作者全員の氏名を当該著書・学術論文等に記載された順（例：編者△△△△、分担執筆○○○○、□□□□、××××）に記入してください。
  - 3) 本人の担当部分を抽出するのが困難な場合は、その理由を明記してください。  
例：共同研究につき本人担当部分抽出不可能
  - 4) 一冊の本を数人で執筆した場合（分担執筆を含む）、当該部分は単著であっても共著と整理し、上記1)と同様に担当箇所を示してください。

[ご参考： 研究業績等に関する事項 記入例]

| 著書，学術論文等の名称                                                                                                                   | 単著，<br>共著の別                  | 発行又は<br>発表の年月                                             | 発行所，発表雑誌等又<br>は発表学会等の名称                                                                                                       | 概 要                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (著書)<br>1. ●●の●●と●●<br>2. ●●の●●戦略<br>:                                                                                        | 単<br><br>共                   | 2013年11月<br><br>2018年 5 月                                 | ●●社<br><br>●●出版社                                                                                                              | .....<br>.....<br>.....<該当著書の概要>.....<br>共著者：●●●●、●●、関学太郎、●●●<br>担当部分：「●●」 (pp. XXX-XXX)<br>.....<担当部分概要>.....                                                          |
| (学術論文)<br>1. ●●における●●<br>(博士学位論文)<br>2. ●●における●●と●●<br>●●の現状と課題<br><査読付><br>3. ●●における●●<br><査読付><br>4. ●●における●●<br><査読無><br>: | 単<br><br>単<br><br>単<br><br>共 | 2001年 3 月<br><br>2005年12月<br><br>2007年10月<br><br>2009年12月 | ●●大学●●学研究科<br><br>日本●●学会 日本●●<br>●●学会誌第24巻第3号<br><br>Review of ●●●●●,<br>Vol. 22, No. 2<br>●●学会『●●研究』<br>第48巻                 | (全●頁)。.....<br>.....<br>(pp. XX-XX)。.....<br>.....<br>(pp. XX-XX)。.....<br>.....<当該論文の概要>.....<br>共著者：●●●●、●●、関学太郎、●●●<br>担当部分：「●●」 (pp. XXX-XXX)<br>.....<担当部分概要>..... |
| (学会発表等)<br>1. ●●と●●<br>2. ●●における●●<br>3. ●●における●●<br>:                                                                        | 共<br><br>共<br><br>単          | 2007年10月<br><br>2009年 2 月<br><br>2009年 9 月                | 日本●●学会第●回研<br>究発表大会<br>(於：●●大学)<br><br>●●th ●●●●<br>Annual Conference<br>(Chicago, USA)<br><br>第●回日本●●学会年<br>次大会 (於：●●大<br>学) | .....<当該発表の概要>.....<br>共同発表者：●●●●、●●●、関学太郎<br>担当部分：「●●」<br>.....<担当部分概要>.....<br>.....<当該発表の概要>.....<br>共同発表者：●●●●、●●●、Kwangaku Taro<br>担当部分：「●●」<br>.....<担当部分概要>..... |
| (その他)<br>1. ●●は△△であるとい<br>うこと<br>:                                                                                            | 単                            | 2012年 4 月                                                 | Review of ●●●●●,<br>Vol. 24, No. 4                                                                                            | .....                                                                                                                                                                   |